



『尊厳』～自分たちの意志を貫き通した夫婦愛～

Kさん 78歳は、3年前に進行性核上性麻痺という原因不明な難病となった。この病気は主に嚥下障害があり、口から食べ物が通らず、誤嚥しやすくなる。胃に穴を開けて直接栄養を入れる胃ろう造設術をする人が多い中「食べるのが好きだった人だったので、口から食べれないのなら仕方がない」と、胃ろう造設を頑として受け入れなかった。妻も夫の意志なので尊重したいと、胃ろう造設について医師から何度も説明があったが、2人の気持ちは変わらなかった。



病気の進行性が早く、嚥下機能が低下し、誤嚥性肺炎で何度も病院の入退院を繰り返す。筋力も低下し、歩行困難となり、日常生活に色々と制限されてきた時、『ケアホーム希望』の利用が開始となる。夫婦2人の生活で、妻も持病があるが、夫の介護について「自分がやれることはしてあげたい」と献身的であった。

口からはほとんど食べられなくなり、「泊まり」のサービスを利用し脱水症にならないように点滴をしたり、痰が自分では出せなくなり吸引をしたりした。妻は毎日『ケアホーム希望』へ面会に来てはマッサージをしたり、夫の苦しみを少しでも分かち合いたいと、吸引等のケアを看護師に教わりながら一生懸命ケアを行った。

Kさんが「アイスクリームが食べたい」と言うと、少量ではあるが口から食べることもできた。苦しまずに最期を迎えさせてあげたいと強く願い、息子夫婦も頻回に顔を見せに来て、両親を励まし支えた。夫が少しでも体調が不安定になると、妻は一晚中横にいて夫の体調を見守ることも度々あった。妻は「家で最期を迎えさせてあげたいと思っていたが、一人では思うようにできず、病院嫌いの夫にとっては『ケアホーム希望』の「泊まり」のサービスを利用させてもらい本当に良かった」と言う。

先月、病状が急変し、妻と息子夫婦の3人が付きっきりで介護し、翌朝に家族といつもの職員に見守られ、天国へと旅立った。Kさんが『ケアホーム希望』を利用して約5ヶ月の日々であった。

『尊厳とは何か?』と聞かれた時、人生 苦あり楽あり、大波 小波と、色々なことがこれまであったと思う。しかし、夫婦にとって終始一貫、自分たちの生活を貫き通した夫婦愛だった。

千の風になって

私のお墓の前で
泣かないでください
そこに私はいません
眠ってなんかないません
千の風に千の風になって
あの大きな空を
吹きわたっています

秋には光になって
畑にふりそそぐ
冬はダイヤのようになり
きらめく雪になる
朝は鳥になって
あなたを目覚めさせる
夜は星になって
あなたを見守る

私のお墓の前で
泣かないでください
そこに私はいません
死んでなんかないません
千の風に千の風になって
あの大きな空を
吹きわたっています

千の風に千の風になって
あの大きな空を
吹きわたっています



調理師になるきっかけは、私自身が体を壊してしまい、薬では体質を変えることができず、食事で体質を変えたいと思い、調理の勉強を始めました。茶懐石料理屋で和食の基礎を約10年間学び、2月から『ケアホーム希望』で働いています。ここはオープンキッチンで利用者さんとの距離も近く、お話をしながら、好みや体調を聞き、一緒に食事することで反応もすぐに分かるのでとてもやりがいを感じています。 **そして なにより 食の大切さを痛感しています。**



いつも食事の時間が楽しみだよ！

ごちそうさま～
私はいつも完食だわ



うまいよ！



美味しくてお米がすすむわね！



この食事なら毎日でも食べに来たいわ…



食事は職員も一緒にみんなで楽しく食べます！

ですが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止策として、食事中は密を避け、距離をあげるため時間をずらすなど、これまでとは違う新しい運営スタイル、生活様式で対応しています。

